

## 農村文化研究の

### 研修生を迎えて

小 関 栄

国立台湾大学大学院(人類学研究所)修士生の李文馨さんがMOA自然農法文化事業団を通して農村文化研究と農業実習のために来訪。十月三日から三泊四日で、わが家に宿泊しての研修だった。

初日と二日目は、花のむら会員の石樽良雄・由美子さんの指導で、光陽の里の石樽農園で実習。また、



倉馬の里では藤本将さんにより学園花のむらについての話と、倉馬の里の農園の状況を勉強した。その翌日、翌々日は事業団の山崎敏光

さん(掛川市下垂木の農場での野菜栽培の研修であった。

夜は、わが家で農村文化について勉強したいとのことであったので、学園花のむらでの活動について、発足してから十五年になるが、その間、会員は相互に助け合い楽しみながら、自然との調和を図りつつ、有機栽培農法で、それぞれの農場で「みんなでやろう小さな農業」をしていることを話すと、非常に興味を持って、眼を輝かせて聞いていた。

さらに、花のむらは創立者の宮城正雄さんがここに報徳文化村を志していたので、早くから報徳精神が根付いているというところ、報徳にも関心を持ち、その翌日は、本人たちの希望で大日本報徳社を見学することになり、そこでたくさん資料を集め写真に収めて、よく学んでいた。

また、当地は昔から、初山、たぶち、さなぶり、えびす講などの節季毎の各家庭でささやかな伝統行事が続けられているし、地域挙げて、みんなで収穫祭や秋祭りが盛んで

あると話をするに興味深くメモしていた。

それにつけても、李さんは若い女子学生なのに実に律儀で、礼儀正しく勉強熱心なものには大いに感心した。

(写真中央が李嬢さん、藤本さん宅前で小生は左、

## 光陽の里だより

### 収穫祭盛況に

10月27日、心配された雨も上がり、光陽の里の収穫祭が盛況に行われました。里山倶楽部も参加し模擬店に焼き芋・つきたてのお餅・各種燻製・手作り鎌を販売し好評でした。参加者も例年より多く、ビンゴゲームで締めくくりました。

私ごとですが、広報担当の松井は餅つき係でしたが、体調不良ですべてを皆様にお任せして、ダウン。家までくるまで送って貰う醜態をさらし心配をおかけしました。翌日、

朝一番に医者に駆け込み点滴と抗生剤と咳止めを貰い、何とか生きております。ご心配をおかけしました。



### 14年度の土地契約が

14年度の土地契約のために、畑の利用状況をチェックし、残念ながら利用状況が芳しくない(今年、一度も顔を出してない?)会員には退会を願ひ、新年度のスタートを切るべく契約書を送付しました。

まだあいている場所もありますのでお友達に呼びかけて、新しい農業の担い手として、新鮮・安心。安全な野菜づくりの仲間を増やしましょう。